

団 体 名	谷仲山緑地を守る会
代 表 者 名	笹木 延吉
連 絡 方 法	電話:090-6029-1811 e-mail:eisvogel311@jcom.zaq.ne.jp
団 体 案 内 (目的・趣旨)	谷仲山緑地は、神明上区画整理事業等により雑木林が緑地として公有化された主に日野台地の北斜面の雑木林を、明るい健全な雑木林に維持管理し、併せて里山の生物多様性を復活し、次の世代に引き継ぐ事を目的としています。カタクリ等の野草を保護し観察会などを実施しています。
設 立 年	2016 年
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○雑木林の管理(下草刈り、萌芽更新、粗朶 柵工等)に関する作業 ○植生調査、野草の保護、蛍の調査活動 ○カタクリ祭りなどを開催 ○環境学習の推進 ○他団体との交流 
主なフィールド	神明第 3、第 5、第 6 緑地(日野市日野本町 3-6-1 他)
活 動 日	毎月第 3 日曜日午前 9 時 30 分～午後 3 時まで
会 員 数	16 名
募 集	いつでも大歓迎
そ の 他	2,000 円/年
自 由 記 載	<p>カタクリ祭り:今まで滞っていた雑木林の管理を進めるうちに、カタクリの群落が毎年少しずつですが増えてきました。そこで、この貴重なカタクリの観察を通じて、市民の皆様自然を守ることの大切さを共感して頂きたく、開花期である 3 月下旬の 1 週間ほどテントを張り、写真等を展示したカタクリ祭りを開催し皆様をご案内しています。</p> <p>次ページに、団体紹介パンフレットを掲載</p>

谷仲山緑地の野草・樹木



イチリンソウ

フイリハグロスマレ

ナガバスマレサイシン

ハチオウジアザミ

ツクハトリカブト

キツネノカミソリ

タカオヒゴタイ

アブラチャン

ヤマトアオダモ

コクサギ

～谷仲山緑地とは～

谷仲山緑地は、昭和41年に始まった日野市施行の神明上土地區整理事業により公有化された民有地を中心とした、主に日野台地の北斜面の雑木林です。しかしその後人の手による管理がほとんどされていない状態が続き、貴重な野草たちが細々と生息していました。そこでボランティア活動によりこれを閉る健全な雑木林として管理し、野草たちを保護育成し、この自然環境を市民の皆様に公開することを目的に、平成28年5月「谷仲山緑地を守る会」を立ち上げました。以降、今日までの私たちの地道な活動により、第3緑地はカタクリやキツネノカミソリ、第5緑地はニリンソウ、そして第6緑地ではニリンソウやハチオウジアザミなどの野草たちの大群落がみられるようになりました。また第6緑地の湧水（水辺のある風景日野50溪のひとつ）付近では6月初旬ごろ淡いホタルの光が!!

～一緒に活動してみませんか～

私たちはボランティアとして楽しく活動し1日を有意義に過ごすことを幸せを感じています。
 活動場所：神明上第3・5・6緑地
 活動内容：萌芽更新、粗大伐採、下草刈り、カタクリ等の野草保護、カタクリ祭（3月下旬）、ホタルの観察（5月下旬から1か月）
 活動日：毎月第3日曜日、9時半～15時
 集合場所：谷仲山地区センター（日野市神明4-11-2）
 年会費：2,000円（ボランティア保険込み）
 連絡先：代表 笹木延吉 電話 090-6029-1811
 副代表 佐々木徹 電話 080-5409-5207
 立川航代 電話 090-1048-3445

谷仲山緑地を守る会



明るく健全な雑木林を次の世代に!!

2023.03刊

【神明上第3緑地のカタクリ祭】

今まで滞っていた雑木林の管理（下草刈り、萌芽更新など）を進めるうちに、カタクリの群落が毎年少しずつ増えてきました。そこでこの貴重なカタクリの観察を通じて市民の皆様にも自然を守る大切さを共感していただきたく、開花期である3月下旬の1週間ほどテントを張り、写真等を展示したカタクリ祭を開催し皆様のご案内をしています。



【日野市とのパートナーシップ協定締結】

日野市と谷仲山緑地を守る会は、谷仲山緑地等を市内に残された貴重な動物の生育環境が維持できる樹林地として位置づけ、カタクリ等希少生物の生育環境を維持・保全し、生物多様性に配慮した活動を進めていくこととしました。これに基づき、令和4年、両者は協力・連携して「谷仲山緑地の管理・運営に関するパートナーシップ協定」を締結しました。この協定締結により私達の思いが次世代に引き継がれますように!!

谷仲山活動エリア・アクセス

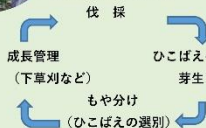
日野駅から、第3緑地5分、第5緑地12分、第6緑地13分、湧水16分
 (いづれも駐車場はありません)



【萌芽更新】

放置されたままの大木を、秋から冬の間、木の活動が休む時期に伐採します。切り株からヒコバエと呼ばれる萌芽が出てきて、世代交代（萌芽更新：右図）が進みます。

【萌芽更新サイクル】



【雑木林の保全と管理】

その昔、薪や炭、畑に入れる落ち葉、農具や生活用具、食料にいたるまで、生活に必要なものを雑木林からまかなっていた暮らしがありました。しかし昭和30年代以降の燃料革命等により、雑木林には昔のような薪炭材、農具材としての重要な役割がなくなりました。雑木林は、人の手が入ることで豊かな自然のバランスが保たれますが、手入れを怠ると数年で寂になり、生物多様性もなくなります。下草刈りや萌芽更新作業など、昔の人に代わり私達ボランティアが努力することで、雑木林が息を吹き返します。

【下草刈り】

ササは放っておくとどんどん高く育ち、他の植物が入り込む余地がなくなってしまいます。ササなどの下草刈りを定期的に繰り返すことで草地全体の草丈が低く抑えられ、植物の多様性が保たれます。



【粗朶（ソダ）掘り】

木を1本伐採すると多くの枝を整理しなければなりません。斜面の土留めもかねて、杭を打ち、そこに適当な長さで切りそろえた枝（粗朶）を積み上げていきます。

